

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
 【発行日】平成28年2月4日 (2016.2.4)

【公表番号】特表2014-503829(P2014-503829A)  
 【公表日】平成26年2月13日 (2014.2.13)  
 【年通号数】公開・登録公報2014-008  
 【出願番号】特願2013-551330(P2013-551330)  
 【国際特許分類】

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

G 0 1 N 33/573 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 N 33/53 S

G 0 1 N 33/53 D

G 0 1 N 33/573 A

G 0 1 N 33/53 N

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成27年12月3日 (2015.12.3)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 0 8  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 0 8】

したがって、巨大抗原分子に対する腸管透過性測定のための非侵襲性の方法、装置、アッセイが必要とされている。該巨大抗原分子は、免疫系を刺激し、炎症を誘発し、その結果、最初は血液脳関門を開放し、続いて神経炎症および神経変性をもたらし得る ( 1 5 ~ 2 5 )。上記のニーズおよびその他のニーズは、本発明により満たされる。

【誤訳訂正 2】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 5 1  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 5 1】

図 4 に示されるように、本発明の方法論の重点は、抗原である巨大分子にある。バリアからの該巨大分子の開放において、該巨大分子は免疫系に挑戦する能力を有しており、該巨大分子に対する特定の I g G、I g M および / または I g A 抗体の産生をもたらす。該特定の I g G、I g M および / または I g A 抗体は、血液、血清および / または唾液試料中で検出される。